施工上の注意事項

◎下地は平滑できれいですか?

下地は乾燥材を使用し、釘の頭や針金、段差や節など無きよう平滑にし、ゴミや木クズなどきれいに掃除します。

◎断熱材は必須

断熱材は硬質発泡45㎜以上を推奨します。(グラスウールは床下地と密着しない為適しません)

◎土足厳禁

ぽからシートに上る場合は、素足で作業を行って下さい。

◎釘・タッカー厳禁!

ぽからシートには絶対に釘・タッカーを打たないで下さい。誤って打った場合、ぽからシートは交換になります。

◎工具等の落下注意

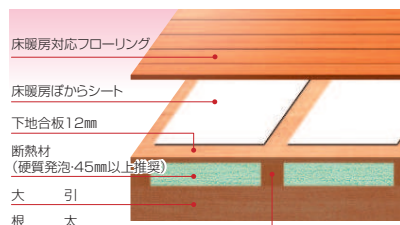
工具類の落下には充分に注意して下さい。

◎ぽからシートの養生

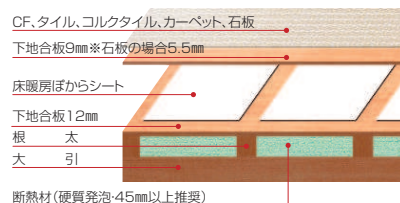
仕上材の施工が直ぐに出来ない場合は、下地合板等でぽからシート全体を養生して下さい。

★本製品は屋内用です。屋外等一般住宅内以外には使用しないで下さい。
★コンクリート下地(RC等)への直接施工は行わないで下さい。
★コンクリート等への埋設施工は行わないで下さい。
★床下から湿気の上がり易い所や結露のし易い所は必ず防湿処理を行って下さい。
★浴室などの常時湿気や水のかかる場所やおそれのある場所は施工しないで下さい。
★コンクリート下地は通常の条件下で最低4週間以上の乾燥期間をとり、含水率を10%以下にして下さい。

■仕上材別施工方法(床暖房用の仕上材を必ずご使用ください)

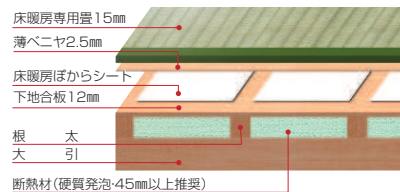
●フローリング、無垢材施工図 WOOD FLOOR

ぽからシートとフローリングの長手が垂直になるように敷設します。

無垢小幅フローリングを使用する際は、ぽからシート上にベニヤ5.5㎜を張ってから施工して下さい。

■CF、タイル、コルクタイル、石板等 CUSHION FLOOR

ぽからシート上にベニア9mm(石板は5.5mm)をビス止めし、その上から耐熱用接着剤で仕上げ材を張ります。

① ぽからシートを置かない根太上に地墨をつけます。
② 結線部分を拾い、斜線で印をつけます。
③ 結線部分以外の根太上地済み部分をビスで止めます。
④ 上張りベニア上に耐熱用接着剤を塗り、各仕上げ材を施工します。

※大理石も石板と同様の施工です。

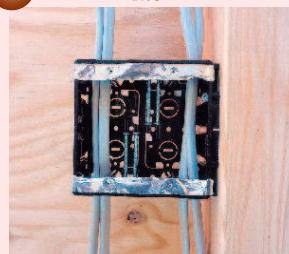
■畳 TATAMI

ぽからシート上に薄ベニヤを張り、床暖房専用畳を敷きます。

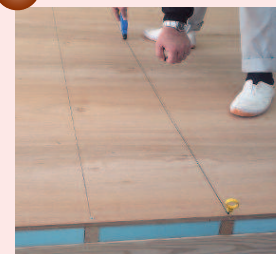
畳が現場に施工されるまでの間は、敷設したぽからシートにキズなどつかないように養生して下さい。

薄ベニヤは水等を溢した場合にぽからシートへの浸食を防ぐ為なので、薄ベニヤの継ぎ目も養生して下さい。

施工手順

共通

1 一次·二次配線とコントローラボックスの取付け

コントローラ取付け位置(目安:床から1200㎜程度)を決め、壁にJISスイッチボックス2個用深型(現場調達)を取付け、一次側電源コード(二次側負荷コード)を配線します。

2 一尺ピッチの墨出し

フローリングのジョイント部(根太上)を基準として一尺間隔でぽからシートの割付けを墨出しします。

3 ぽからシート先端の墨出し

フローリング張り出し位置から継ぎ目と重ならないように位置決めします。

■床下結線(床下地12㎜)の場合

4 60φの開口処理

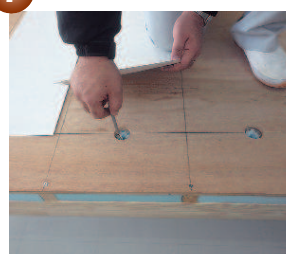
③の中心位置に印を付け、下地合板のみをドリルで60φ程度の穴を開けます。

5 断熱材の開口

断熱材をドリルで15φ程度の穴を開けます。
※15φの穴位置は11ページ❽を参照してください。

6 掃除

掃除機を使用してきれいに掃除します。

7 リード線の投下

リード線を④⑤で開けた穴に投下します。

8 仮止め

全てのリード線を投下し、開口部との不陸が無いように調整して、養生テープで仮止めします。
1m間隔位でも止めます。

9 追線コネクタの接続

付属の追線にリード線を接続します。同色線同士(黒と黒、白と白)を接続して下さい。
※抜く時は、コネクタをつまみながら引き抜きます。

10 絶縁処理

湿気が入らないようにする為、コネクタ部分を自己融着性絶縁テープで巻き付けます。
※一つずつ巻き付けて下さい。

11 追線との接続確認

ぽからシート全てと追線が確実に接続されているかを確認します。

12 電気検査

合成抵抗値検査を行います。本値はPTC特性により外気温度で左右されます。20℃環境で突入電流値に対して±20%程度が許容範囲内です。これより夏場はプラス冬場はマイナスの数値になりますので、外気温を考慮して測定して下さい。同時に絶縁抵抗(DC500V)検査も行います。

■床下結線(根太レス床下地24～30㎜程度)の場合

4 60φ程度の半分開口処理

厚下地合板を60φ程度のドリルで半分(12㎜)程度掘ります。(全部はくり貫かないで下さい)

5 開口部取り除き

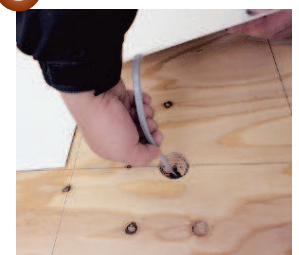
マイナスドライバー2本を使って、60φ程度の開口部分を取り除きます。

6 下地合板と断熱材の開口

残った下地合板と断熱材をドリルで15φ程度の穴を開けます。
※15φの穴位置は下記❽を参照してください。

7 掃除

掃除機を使用してきれいに掃除します。

8 リード線の投下

リード線を④⑤で開けた穴に投下します。

前ページの 8 仮止め へ

■床上結線(床下地12㎜)の場合

4 配線経路作業

10ページ③部分を丸ノコを使い80㎜程度の配線経路を作ります。
(コントローラ位置の壁までの追線経路も20㎜程度で作ります)

5 絶縁処理

湿気が入らないようにする為、コネクタ部分を自己融着性絶縁テープで巻き付けます。
※一つずつ巻き付けて下さい。

6 配線と仮止め

接線した追線を配線経路のぽからシートの下に凸部とならないように収め、養生テープで仮止めします。

前ページの 12 電気検査 を行います。

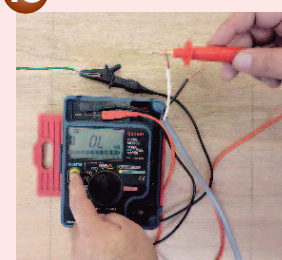
共　　通

13 接着剤

仕上材を貼る際は、床暖房専用接着剤(MD760·推奨)をご使用下さい。

14 仕上げ

フローリングを仕上げる際はぽからシート間に接着剤をビード付けし、手打ちで釘を止めて下さい。

15 電気検査

絶縁抵抗計(DC500V)で漏電チェックを行います。50MΩ以上で合格としますが、下地合板が湿っている場合や雨天時には、50MΩ未満になる場合がありますので湿気を考慮の上測定して下さい。同時に合成抵抗値検査も行います。

16 コントローラ

13ページの「コントローラ·リレーボックスの取付け」を参照し、正しく結線·取付けします。

17 試運転

1時間程度、試運転を行って敷設範囲の床表面温度の上昇を必ず確認して下さい。

18 取扱説明書と保証書　重要

保証書はダンボールのフタ表面に付いています。

間違って捨てないで!

取扱説明書と保証書は、床暖房本体に同梱されていますので、お施主様へ必ずお渡し下さい。
※お施主様には保証書内の返信ハガキ(加入申込書)の記入と投函を伝えて下さい。